

第3回路網整備検討会

日時：令和7年10月15日（水）14時00分～17時00分

【主な意見等】

<総論>

- ・過剰な森林作業道の作設を抑制することが必要なものであり、森林作業道を作ること自体を抑制すべきと捉えられないようにすべき。本来は森林作業道のみが延びるのではなく、幹線となる林道があって細部路網があるはずなので、林業専用道の開設も含めた路網の効果的な配置についても考えるべき。
- ・林道を総合的に見て全体計画を作成できる技術者が減っており、全体計画を作成できる技術者の養成が課題。林業適地の拡大等、技術者を育成する目的もあわせて記載すべき。
- ・林道が災害時の代替路として役立つことは記載されているが、林道は地元住民の生活道でもあり、中山間地域を支える道であることも記載すべき。

<成熟した資源に応じた路網整備>

- ・路網整備を林業適地に重点化することについて、どのようなところを林業適地と見なしているのかを明確に記載すべき。
- ・運材効率の観点から車両の大型化は重要だが、そもそも主伐しようとする作業の効率性や安全性の観点から林業機械の大型化が避けられないことも明記すべき。
- ・統合型GIS上で林道を可視化すること等により、どの林道を改良したらよいかを地域の共通認識とすることが重要。更に改築については、手順だけではなく改築のベストプラクティスを提示して、カーブの拡幅や補強土壁の使用等の必要な技術を例示すると普及しやすいのではないかと。

<維持管理>

- ・林道は維持管理が主眼となってきている。維持管理するボランティアも減っている中で、業者や森林組合に委託して維持管理しているのが現状であり、維持管理の予算が課題。また、維持管理を安くするのであれば、舗装や排水施設等の改良も大事。

< 林道管理のデジタル化 >

- ・ 林道の管理を紙ベースからデジタルへ移行するメリットをもっと示すべき。また、林道の長期的なデータを把握することで、災害で崩れやすい林道等が見える化し、維持管理や災害復旧の参考とすることができる。林道台帳をデジタル化する際は、森林資源情報や市町村道等との関係が分かるよう、森林G I Sや他の統合型G I S等と連携することも重要。

< I C Tの活用 >

- ・ I C Tの活用については、もっと具体的例や活用状況を記載した方が取組が進むのではないか。